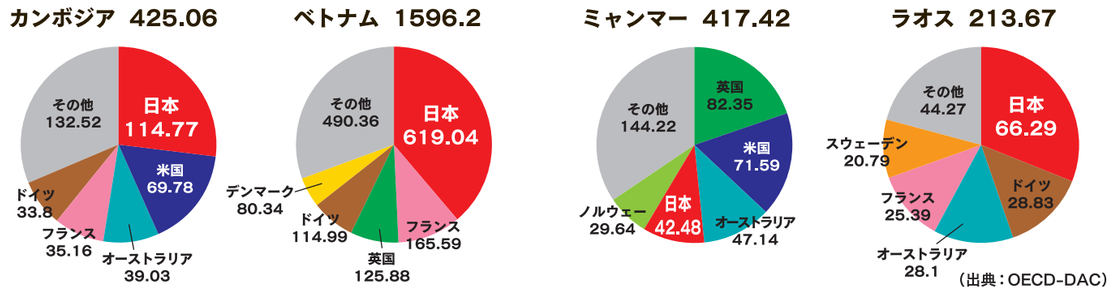
メコンを支える

日本は政府開発援助（ODA）や非政府組織（NGO）などとの連携・協力によって、
多岐にわたる分野でメコンを支援しています。
このような取組を通じて、ますます強固になる日本とメコンのパートナーシップ。
それは、日本とメコン共通の財産であり、より豊かな未来への道標となるはずです。

データで見る国別ODA実績

※2008年実績、単位：百万米ドル



（出典：OECD-DAC）

分野別に見る日本の協力実績

教育

日本はメコン地域諸国において、基礎教育の普及や女性の地位向上に向けた取組などに対する支援を積極的に行っています。また、カンボジアではプノンペン市内の小学校の校舎建設や教員養成、ラオスでは理数科教員の養成活動、ベトナムでは国道沿いの住民に対する交通安全啓蒙活動を行うなど、様々な角度から教育支援活動を展開しています。

幼稚園での交通安全教育（ベトナム）

防災・災害対策

違法な伐採や焼畑により森林が減少し、土壌流出や土砂災害が危惧されているラオス北部において、住民のイニシアチブによる森林保全や持続可能な森林利用を継続的に支援しています。また、2006年にはメコン地域を含む8か国の公共機関で洪水や河川の管理に携わる技術者などを対象に、「洪水ハザードマップ作成」研修を実施。洪水対策への知識と技術の提供を行いました。

育苗、造林、森林保全に関する指導（ラオス）

緊急援助

近年アジア地域は、特に大規模な自然災害が多発しています。日本は、こうした災害の被災者支援のために国際緊急援助隊の派遣や緊急援助物資の供与などを行っています。2004年のスマトラ沖大地震及びインド洋津波被害の際に、救助チーム、医療チームなどをタイに派遣した他、2008年にはベトナムとラオス、2009年にはベトナム、2010年にはミャンマーにおける洪水被害に対し、緊急援助物資を供与しました。

国際緊急援助隊・救助チームの活動（タイ）

保健・医療

HIV/エイズ、鳥インフルエンザなどの地球規模の問題に対してはもちろん、各国・地域の実情に即した保健医療サービス向上のための支援を行っています。ラオスでは10郡の病院に対して基本的医療機材の整備を行い、保健医療サービスの地域間格差の是正に貢献。また、カンボジア政府の「感染症対策計画」に対する資金援助を行っています。

感染症対策計画に対する支援（カンボジア）

水・衛生

日本はメコン地域の国々で、安全な飲料水の供給や上下水道整備のための協力を行っています。特に人口の増加や工場・住宅地域の拡大に伴って、水不足や既存の浄水・送・配水システムに問題を抱えるラオスの首都・ビエンチャン市においては、老朽化した既存浄水場の改修やシステム整備を実施。安定給水に向けた取組を支援しています。

安定給水に向けた取組（ラオス）

インフラ整備

日本はメコン地域の経済発展と生活基盤整備のために様々な支援を行っています。2006年には、東西経済回廊のタイ・ラオス国境に架かる「第二メコン国際橋」を建設。また現在、タイのバンコクでは鉄道などの輸送網整備事業（ブルーライン及びパープルライン）、ベトナムでは「南北高速道路建設計画」などのビッグプロジェクトを支援しています。

バンコクの鉄道建設事業（タイ）

メコン地域で活躍する日本のNGO

NGOとはNon-Governmental Organization（非政府組織）の略称で、開発援助・人道支援・環境などの地球規模の問題に取り組む非営利市民組織を指します。現在、国際協力活動に取り組んでいる日本のNGOの数は400以上とも言われ、各々の理念や目的意識に基づいて、政府中心の援助では対応が困難な草の根レベルのニーズを把握しながら、きめの細かい支援活動を展開しています。グローバル化が進展し、日本の国際協力の役割が更に重要となる中、政府開発援助の有効性を高める上でも、こうした活動を行うNGOとの積極的な連携が不可欠なものとなっています。政府が日本NGO連携無償（※）によって、資金協力した案件数はメコン地域で25件（2007年度実績）。日本のメコン地域に対する支援活動の重要な担い手として、NGOの存在感はますます高まっています。

※日本のNGOが開発途上国・地域で実施する経済・社会開発事業に資金を供与する制度。

日本国際ボランティアセンター（ＪＶＣ）による環境に配慮した食糧確保と土壌保全のための活動（ベトナム）

サイクロンで被災した人々のために―ミャンマーに向かった日本の国際緊急援助隊医療チーム

2008年5月2日から3日にかけて、ミャンマー南部にサイクロンが上陸。死者84,000名を超す未曾有の被害をもたらしました。日本はミャンマー政府の要請を受け、国際緊急援助隊・医療チーム（計23名）を、特に甚大な被害を受けたミャンマー南部エーヤワディ管区ラブッタ市に派遣。避難キャンプ内に診療用テントを設営し、医療活動を開始しました。医療チームが活動したのは、乾季から雨季への季節の変わり目にあたる時期。厳しい日射しと激しいスコールによって、気温と湿度が急上昇する過酷な気候条件のもと、体調を崩す隊員も出ましたが、全活動を通して計1,202名の患者を診療しました。様々な疾病に対する隊員たちの的確な診療に加え、被災者の気持ちを和らげるきめ細かな対応が評判となり、遠方の村から大勢の患者が歩いて訪れるほど。こうした日本の医療チームの活動に、ミャンマー政府のみならず、現地の人々から多くの感謝の言葉が寄せられました。

過酷な条件下で熱心に診療活動を行う医療チーム隊員

微笑みの国からありがとう！切手や紙幣になった日本のODA

「東西経済回廊」構想の一環として建設された第二メコン国際橋の完成を記念して、橋のイラストを用いた切手がタイとラオス両国で発売されました。また、カンボジアとラオスでは、日本の政府開発援助によって建設された橋が紙幣や切手に印刷されるなど、日本の援助に対する感謝の気持ちが、様々な形で表現されています。

タイ・ラオス両国で発売された「第二メコン国際橋」完成記念切手

パクセー橋が描かれた紙幣（ラオス）

メコン架橋（きずな橋）が描かれた切手（カンボジア）